

に参加。

データ利用：FGGE データによる完全な研究計画を立案中，データシステムテストを続行する。

VAP: WWW の主要観測点及び通信中樞に対する支援を続行する。

7. FGGE 政府間計画会議

FGGE 政府間計画会議を1976年2月にジュネーブで開催することになった。この会議の目的は、パネルが採択した計画の審理と、観測組織やデータ処理組織に対する貢献について各国に約束を表明してもらうためである。会議に先立ち FGGE 計画の欠陥を各国に知らせるための処置として、必要の場合には WMO 事務局長はメンバー国に特定の貢献をするよう考慮を要請するもの

とする。

時間がないため現在未解決の欠陥を全部検討することはできなかったが、次のような重要な欠陥事項が指摘された。

(a) II-b データの解析を担当する機関がない。

(b) 50 隻の観測船が必要とされているのに対し、今まで申出のあった船の隻数ははるかに少ない。

(c) 漂流ブイはカナダとイギリスが提供するもののほかに約 100 個が必要である。

なお、次の事項についても各国の考慮を要請したい。

(d) 衛星で伝達される遠隔地の観測。

(e) 衛星による伝達が可能な商業航空機搭載用の自動観測通報装置。

==== 海外だより ====

外国の気象観測所めぐり (6)

シンガポール航空測候所

—1° 22' N, 103° 55' E—

日本が鎖国を解く少し前に、英国は東洋の喉元にある美しいこの島を手に入れた。面積は淡路島ぐらいしかない。赤道直下でどんなに暑いかと思うが、案外温和な海洋性の気候で、しかも、タクシーにはちゃんとメーターがついており、世界中の風俗の展覧会のようなこの島は東南アジア旅行でもっとも落付けるところである。しかし英国人がかって美しい別荘をならべていた海岸は日本の企業によって埋立が進み、その前の海は日本のタンカーの油で汚染されつつあるのを丘の上から眺めていると肩身がせまいような気がする。

この国には、せまい国土に 50 以上の雨量観測所がある。雨季は冬であるがマレー半島東岸ほど多雨ではない。冬の北東モンスーンの気流軸がいくぶん北風よりになり、全体としてその軸が南下するような年は珍らしく大雨となる。年中ほとんど 27°C ぐらいの温和な気候で気象災害の少ないこの国でも雷雨による短時間の道路の溢水はよく起る。

ここでは 100 年以上の気象観測値が記録されており、モンスーンアジアの気象に関する古典的な論文も多く発刊されてきたが、その中心の気象台は独立した建物を持

たず、港の近くの古めかしい郵便局の建物の中にある。新興マレーシアのクアラルンプールの華やかな建物にくらべると、なんとなく年齢を感じさせるような役所である。ここには北海道大学の気象研究室に留学しておられた周徳さんがおられ、ある日、航空測候所へ案内して下さった。東南アジアの多くの気象台とおなじで、ここが予報中樞である。ハイジャック時代とあってここへ入るのは大変である。あらかじめ書類を出しておいて、当日はまず空港の憲兵隊へ出頭して写真入りの身分証明書を胸につけてもらい、帰りにまたそこを通過して出ることになる。

せまいこの国ではすべての航路が国際線であり、航空予報には国際的な協力が不可欠である。気温差が小さいため滑走路の気温予報は楽であり、濃霧もほとんどないから日本より仕事は簡単である。しかし、等圧線は使えず、前線もほとんどなくて雷雨予報はむずかしい。対流圏上部と下部とのコントラストが大きく、レーダーエコーも高度によって進行方向が異なるため解析がむずかしいと聞かされた。

(中島暢太郎)